

令和5年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

兼 北海道青少年科学館連絡協議会第2回館長会議 概要報告

1 会議名

令和5年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議
兼 北海道青少年科学館連絡協議会第2回館長会議

2 会場

ホテルオホーツクパレス紋別（北海道紋別市幸町5丁目1-35）

3 日程

令和5年10月19日（木）15:00 ～ 20日（金）12:00

4 参加者（順不同）

旭川市科学館「サイパル」、釧路市こども遊学館、苫小牧市科学センター、北海道立オホーツク流氷科学センター、稚内市青少年科学館、滝川市こども科学館、帯広市児童会館、DENZAI 環境科学館、札幌市青少年科学館、全国科学館連携協議会事務局

※ 資料交換のみ参加

北網圏北見文化センター、厚岸町海事記念館、岩見沢郷土科学館、余市宇宙記念館スペース童夢、小樽市総合博物館

5 会議内容

(1) 連携協総会・幹事会の報告について

北海道ブロック幹事（札幌市青少年科学館）より、幹事会・総会で協議された事項について報告があった。

(2) 北海道博物館協会役員会の報告について

オホーツク流氷科学センターより、北海道博物館協会役員会で協議された事項について報告があった。

(3) 令和5年度4月～8月の各館の運営状況について

各館の上半期の事業報告書を事前に提出していただき、それをもとに報告及び情報交換を行った。主な話題は以下のとおり。

来館者数については、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、前年度より増加している館が多いのではないかと予想していたが、意外にも前年度と比較し伸び悩んでいるという館が多くあった。各館においては、近隣施設と協力して来館者に周遊してもらえるイベントや地元の企業と連携したイベントの企画など、来館者増につながるような工夫をしているとのことであった。前年度よりも来館者数が伸びている館については、海外からの観光客やバスツアーが再開されたことなどによる影響が大きいとのことであった。また、消毒や入館者の名簿管理、マスク着用の義務などの感染症対策は、5類への移行を機に行わなくなったという館がほとんどであった。また、滝川市こども科学館がプラネタリウムの導入を検討していることから、各館のプラネタリウムに関する情報交換を行った。

(4) 連携協

ここ数年オンラインによる開催が多かった研修について、オンライン開催は多くの職員が参加できるという利点があるが、実際に顔を合わせて行う研修から学べることも多いので、対面式の研修の開催（またはハイブリット開催）もまた企画してほしいという声があった。連携協事務局からは、対面式の研修に戻す時期は決まっていないが、今後

計画していききたいとの回答があった。また、加盟館同士の人材交流について、「受け入れはできないが、職員の派遣は行いたい」という声が多く寄せられているようで、「交換」ではなく「派遣」という形で研修を行うことを考えたいとの話があった。

6 施設見学：北海道立オホーツク流氷科学センター

北海道ブロック会議は3年ぶりに対面式で開催した。対面やオンラインなど顔を合わせて開催することにより活発な意見交換が期待できる。オンラインの環境が整っていない館もあるが、今後も新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、できるだけ多くの館が参加しやすい開催形式を検討していきたい。

なお、欠席館には北海道ブロック幹事より、会議終了後に各館の資料及び会議の内容の情報を共有することとした。

7 施設見学：オホーツクタワー・アザラシシーパラダイス

世界で唯一「流氷」をテーマにした科学館であるオホーツク流氷科学センターで、プラネタリウムの上映等を行っているドームシアターや、 -20°C の厳寒体験室を見学した。

ドームシアターでは、直径15mのドームに全天周映像を投影することが可能。今回の見学時は、ドローンとガリンコ号の舳先につけたカメラで撮影した迫力ある映像作品『オホーツク 驚きの海へ』を鑑賞した。(作成：北海道映像・(株)プリズム・北海道)映像は、ドーム内に設置されている4K解像度のデジタル式プロジェクター5台から同時に投影したものを「アマテラス」という繋ぎ目補正ソフトで補正し、合成している。スクリーン部(ステラドーム)は通常はグレーだが、日中の明るい映像も映すため、ホワイト寄りの壁にしているとのこと。

プラネタリウムは月1回の投影。座席は120席(コロナ禍では50席で運営)。星座絵の動的なつながり方は、同じソフトを使用している名寄が作成したプログラム・アニメーションを活用しているとのこと。

厳寒体験室内には、職員による手作りの展示物「流氷水族館」が設置されていた。オホーツク海の生物が氷漬けにされており、ひとつの作品を作成するのに1週間程度かかるとのこと。職員によるデモンストレーションで、低温のアイロンを使って氷の表面のみを融かし、氷の曇りを取る様子を見せていただいた。また、展示室内を見て回ることによって正解がわかる「流氷クイズ」が設置されており、来館者に目的を持って展示物を見てもらおうとする工夫が感じられた。

8 その他

オホーツクタワーでは、海底階にあるミニ水族館でオホーツク海の特徴等について教えていただいた。海外からの観光客が多いからか、館内の案内表示等はほぼ日本語と英語で作成されていた。アザラシシーパラダイスでは、保護した野生のアザラシへの飼育が行われており、えさやり体験をさせていただいた。

●会議の様子

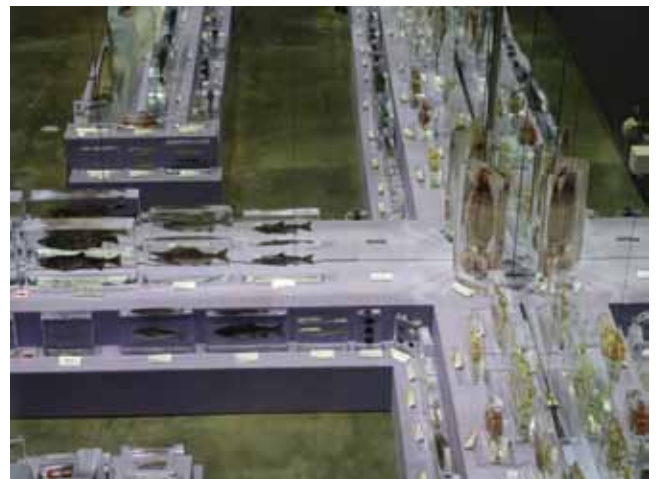


●施設見学：北海道立オホーツク流氷科学センター

・ドームシアター



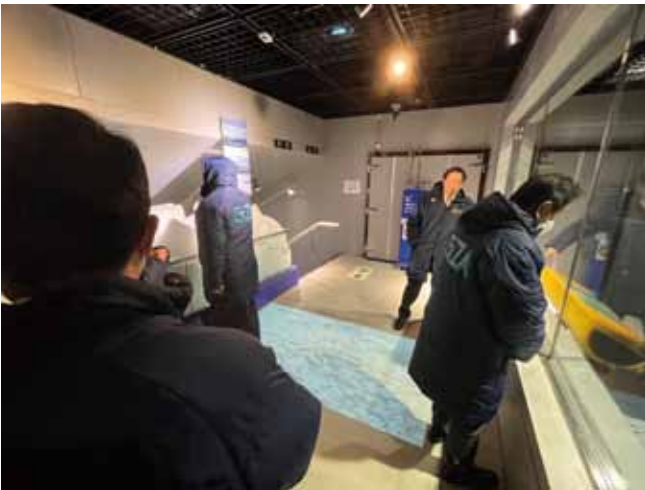
・厳寒体験室（職員による手作りの展示品）



・ 厳寒体験室



-20℃の部屋でしゃぼん玉を飛ばすとどうなる？



厳寒体験室に入る前に防寒着の貸し出しあり

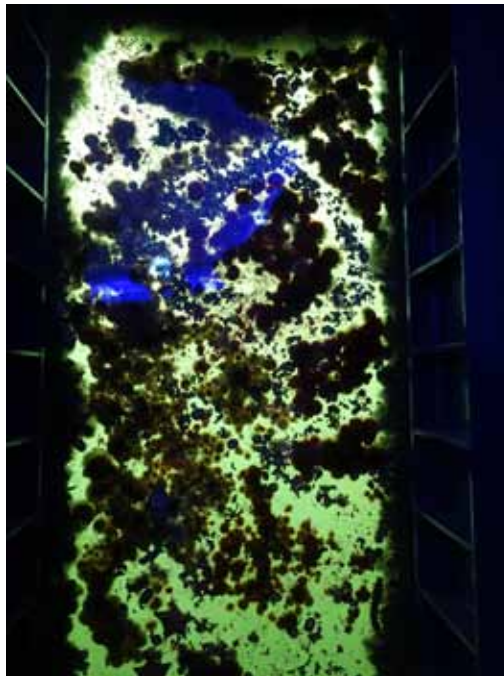


厳寒体験室を出たあとにめがねやカメラのレンズのくもりを取る乾燥機が設置されていた

●施設見学：オホーツクタワー・アザラシシーパラダイス



オホーツクタワーの見学。海底階のミニ水族館ではチョウザメにえさを与える体験ができる



海底階の窓のうち、1枚だけ4年以上清掃されていない窓があり、たくさんのプランクトンや貝などが付いている。海水が緑色に見えるのは、プランクトンが豊富である証拠とのこと。



アザラシシーパラダイスの見学。保護された野生のアザラシにえさを与える体験ができる